

晴らしい技術である。しかし、使用しない農業まで分析しなければならない現状にはむなしさとはかなさを感じる。

今回のワールドカップ日韓共同開催でサッカーの芝草が話題となった。確かにサッカーに限らず、ラグビー、テニス、ゴルフ等も芝草がなくても競技ができるスポーツである。しかし、プレーの快適さと危険性を考慮すると、当然の

ことながら芝草が必要なのである。今後は世界中の誰もがうなずける約束を結び、新しい時代に向かう人のために新しいルールを設けるべきではなかろうか。

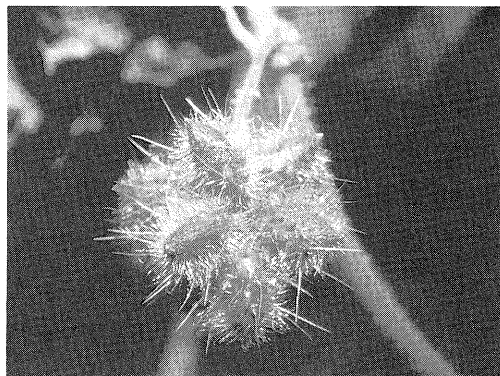
以上、ゴルフ場の雑草管理における最近の問題点について私見をまじえ述べたつもりであるが、独善や不備不明の点についてはご指摘いただければ幸いである。

外来(帰化)雑草・豆知識 (3)

— ア レ チ ウ リ —

アレチウリは生育旺盛で、よく生育する株では茎は長さ10m以上にもなり、枝分かれは1～3次分枝まで含めると100本以上の枝を出すといわれている。このため飼料用のトウモロコシ畑などに発生すると、トウモロコシの全面を覆って収穫皆無となったり、河川敷や荒れ地に発生すると他の草に覆いかぶさり、一面アレチウリを敷きつめたような状況になる。また、生育旺盛なものでは1株から2万5千粒以上の種子が生産され、これが翌年の発生源となる。アレチウリは各地で強害草となって被害が拡大し、防除対策が急がれている雑草である。

⑤



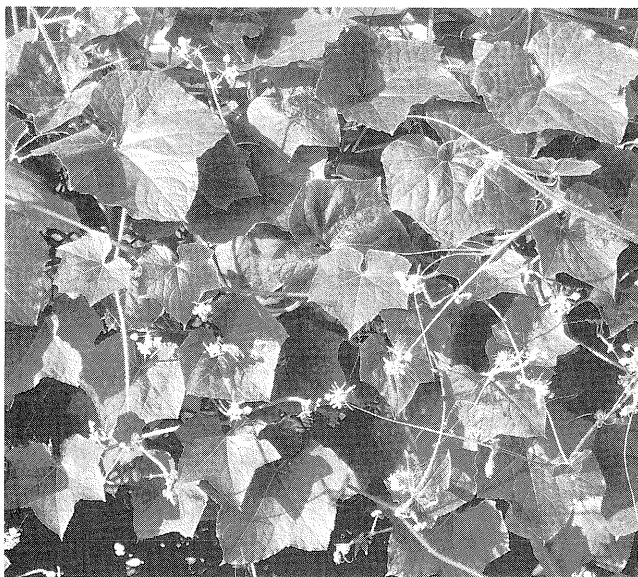
▲果実

アレチウリ 【ウリ科】

Sicyos angulatus L.

北アメリカ原産の一年生草本。茎はつるで粗い毛を密生し、巻きひげで他の物に巻き付いて数m以上に達し、葉は広心臓形、両面著しくざらつき5～7浅裂、長い葉柄があって互生する。夏から秋にかけて葉腋に雌雄別の花序を出し、直径1cmほどの黄白色の花を着ける。果実は長さ1cmほどの楕円形で長い刺が密生する。1952年に静岡県で見いだされ、現在では東北以南で普通に見られる。河川敷などに大群落をつくるほか、飼料作物の畑などに発生して問題になっている。

(日本帰化植物写真図鑑, 全国農村教育協会発行より転載)



▲成植物